

2018 年度（第 41 回）日本形成外科学会専門医認定審査についての手引き

2018年8月

一般社団法人日本形成外科学会
専門医認定委員長 木股 敬裕

一般社団法人日本形成外科学会専門医認定委員会は日本形成外科学会専門医制度ならびにその細則に基づいて第 41 回認定審査を下記の要領で実施します。

入会后 4 年以上の形成外科研修歴(臨床研修 2 年の後)と、日本国医師免許証取得後 6 年以上であることが必要です。(入会前の形成外科研修を研修歴に含めることはできません)。

1. 専門医申請書 (本年度より申請方法が変わります。ご注意ください！)

平成 29 年度までは所定の申請書類で学会事務局に提出していただきましたが、本年平成 30 年度(第 41 回認定審査)からは、電子媒体での提出が主となります。

申請書のデータにつきましては、下記 URL よりダウンロードが可能です。

<http://www.jsprs.or.jp/specialist/shorui/index.html>

2. 専門医認定審査受験者の資格

専門医受審者の資格は、以下の日本形成外科学会専門医制度細則第 18 条に定める条件を充足する医師で、2018 年度年会費を 2018 年 10 月 31 日(水)までに納入済の者に限ります。

- 日本国医師免許証取得後 6 年以上であること
- 4 年以上ひきつづいて日本形成外科学会正会員であること (入会年月日をご確認下さい)
- 臨床研修 2 年の後、学会が認定した研修施設において通算 4 年以上の形成外科研修を行うこと。
(但し、本学会入会以前の形成外科研修歴をこの研修期間に含めることはできません。)
- 第 19 条に定める研修を修了し、第 20 条に定める記録を有するもの
(なお、同時期に複数の施設で研修していたとする研修歴は認められません)
- 日本形成外科学会主催の春季・秋季学術講習会受講証明書を 4 枚以上保有すること
研修の年限は書類提出締め切り日より逆算して下さい。有資格者のリストアップと通知はいたしませんのでご注意下さい。

3. 専門医審査手続方法 (すべて電子媒体での提出です)

a) 必要書類データ

書類作成における推奨環境は **Windows10. Microsoft Office 2010 以降**です。この環境以外の場合、委員会で閲覧・審査ができない場合があります。申請書類のデータは必ずご自身で保存して下さい。なお、申請書類データは 3 年間だけ事務局で厳重に保管され、その後は破棄されます。

(記入は、電子化 Tips で必ず記入方法確認した上で、作成を開始して下さい。申請に必要なファイル及び電子化 Tips は、全て形成外科学会ホームページからダウンロードできます。)

- 1) 専門医申請書データ (データ入力後、自著で記入、押印したものを PDF データ化し提出)
- 2) 履歴書 (最終学歴以降)
- 3) 経歴(在籍)証明書 I (データ入力後、所属長の署名、押印したものを PDF データ化し提出) ※注 1
- 4) 研修歴一覧表データ
- 5) 300 症例の一覧表(細則第 20 条第 1 項) データ
- 6) 10 症例写真チェックシート
- 7) 受験者確認票シート (履歴書と同じ写真を貼付してください)
*1)~7)は形成専門医申請 EXCEL 1 ファイルの中にあります。
- 8) 20 症例の症例記録(細則第 20 条第 2 項) データ
- 9) 10 症例の所定の病歴要約(細則第 20 条第 3 項) データ
- 10) 形成外科に関する論文 1 編の別冊の PDF データ ※注 2, 3
- 11) 『臨床研修修了登録証』の写しの PDF もしくは経歴(在籍)証明書 II (データ入力後、所属長の署名、押印したものを PDF データ化し提出) *注 1
- 12) 春季・秋季学術講習会受講証明書(学術研修会、インストラクショナル・コース修了証も可) データ

※今年度は4枚必要です。

- 1 3) 日本国医師免許証のコピーのPDF
- 1 4) 審査料 50,000 円の納付書類のコピーのPDF
(同封「払込取扱票」右側の「振替払込請求書兼受領証」のコピー)

*論文以外(11~14)は、すべて1つのPDFファイルにまとめて提出して下さい。

以上を一括して専門医認定委員会宛に、暗号化したUSBにて必要書類と共に書留に準じた方法(レターパックなど)でお送り下さい。提出ファイルの名前付けやUSBへの保存の仕方は、電子化Tipsをよく読んで行って下さい。

注1) 経歴(在籍)証明書Ⅰ：認定施設あるいは教育関連施設、教育関連施設美容外科において、形成外科臨床研修を行った場合に使用する証明書。もしくは、認定施設あるいは教育関連施設、教育関連施設美容外科において、大学院生、研究生などで、週3日未満1日以上形成外科臨床研修を行った場合に使用する証明書。(なお、臨床研修が週3日のものはその年限の3/4を、週2日のものはその年限の1/2を、週1日のものはその年限の1/4をカウントするものとする)

経歴(在籍)証明書Ⅱ：臨床研修を行った場合に使用する証明書(学会ホームページから経歴(在籍)証明書Ⅱファイルとしてダウンロードできます)。義務化された臨床研修を受けた方は、厚生労働省より発行される『臨床研修修了登録証』の写しの提出で代用可能です。従いまして、義務化された臨床研修の証明につきましては、経歴(在籍)証明書Ⅱでも、臨床研修修了登録証の写しでも、どちらの提出でも可能です。研修を受けた施設で独自に発行された証明書では代用不可ですので、ご注意ください。なお、義務化された臨床研修制度を受けていない方の臨床研修に関しては、これまでどおり経歴(在籍)証明書Ⅱに記載し、提出して下さい。なお、同時期に複数の施設で研修していたとする研修歴は認められません。

注2) 論文の掲載雑誌についての条件は、年に2回以上発行されており、査読がある(日本語または英語の)学術雑誌(Journal)を指し、proceedingsなどは認められません。但し、PubMedで検索可能なOnLine-Journalなどについては、発行回数による制限はありません。なお、論文が受理された日付が提出期限内であれば有効とします。また、入会前に掲載された論文は対象外となります。

注3) 掲載予定の論文に関しては、必ず『掲載証明書(原紙をスキャンしたもの)』と『論文本文』を1つのPDFにまとめて提出して下さい。

- b) 審査料50,000円(資格審査料30,000円を含む)
所定の振替用紙で本委員会郵便振替口座へ振り込んで下さい。
なお、既納の審査料は原則として返還しません。
*通信欄に「専門医認定審査料として」と誤記載ください。

【ゆうちょ銀行から送金の場合】

郵便振替口座：00140-8-51198
加入者名：日本形成外科学会 認定医認定委員会

【他の金融機関から送金の場合】

銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：〇一九店(ゼロイチキューウ店)
預金種目：当座
口座番号：0051198

- c) 書類提出期間
2018年9月15日(土)～ **2018年10月31日(水)【消印有効】**
(但し、事務局に直接提出する際は2018年10月31日17時必着となります)
*昨年までより早い締め切りとなっております。ご注意ください!
- d) 提出先住所 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル9階
日本形成外科学会 専門医認定委員会宛

4. 試験日および試験場 **2日にわたって審査を行う予定です**

※ただし、各受審者は口頭試問については2日の内、いずれかの1日が割り当てられます。

《筆記試験》

2019年1月18日(金) 13時00分開始予定

《口頭試問》 (面接日程は12月31日までに連絡を予定しています)

2019年1月18日(金)～19日(土) 予定

会場：AP品川

東京都港区高輪 3-25-23 京急第2ビル TEL 03-5798-3109

JR品川駅徒歩3分

5. 認定審査の方法

- 1) 提出された書類の審査を行い、資格の有無を決定します。(資格審査)
- 2) 有資格者と確認された申請者について形成外科の一般知識に関する筆記試験、ならびに主に研修記録に関連した口頭試問を行います。(試験審査)
- 3) 筆記試験と口頭試問を上記日程にて行い、両者**及び書類審査を含めた**総合判定により合否を決定します。審査の結果は、専門医認定委員会から本人に直接通知します。合格者は、登録料30,000円を所定の口座に払い込んで下さい。その後、理事長が学会の専門医登録原簿に登録のうえ公示し、認定証を交付します。

【注】

- ※ 専門医試験問題集は会員専用ページから閲覧が可能です。
<http://www.jsprs.or.jp/member/members_1/>
試験問題の内容が更新されておりますので、ご確認ください。
- ※ 毎年問題の一部が修正、加筆され、また新問題が追加されます。
さらに、2018年度からは新たに図式問題(写真やXPなどの臨床画像や検査結果を提示した問題)が出題される予定です。
- ※ 専門医認定試験に関するQ&Aをホームページに掲載致しましたので、必ずご一読下さい。
(申請書ダウンロードのページからも確認が出来ます)
<<http://www.jsprs.or.jp/member/specialist/pdf/Q&A.pdf>>

6. 参考資料(日本形成外科学会専門医制度及び同細則より抜粋)

日本形成外科学会専門医制度第3条(専門医の認定)

日本形成外科学会(以下学会という)は、正会員の中、医師であつて、学会の認定する施設において、所定の修練を行い、形成外科における知識と技能に優れたものを審査の上、学会専門医として認定し、専門医証を交付し、専門医登録簿に登録する。

同細則第18条(専門医申請資格)

専門医申請資格は、以下の各項を充足するものとする。

- (1) 6年以上日本国医師免許証を有するもの
- (2) 臨床研修2年の後、資格を有する研修施設において通算4年以上の形成外科研修を行うこと。4年以上ひきつづいて日本形成外科学会正会員であること
- (3) 第19条に定める研修を終了し、第20条に定める記録を有するもの
- (4) 日本形成外科学会主催の講習会(学術研修会あるいはインストラクショナル・コース)受講証明書を4枚以上有すること

第19条(研修の条件)

1. 研修期間

形成外科研修は4年以上とする。但し義務化された臨床研修期間中の形成外科研修は含まない。この規程は第98回日本国医師国家試験合格者以降の者に適用する。それに該当しない者については、これと同等以上の形成外科研修を終了したと専門医認定委員会が認定したものは可とする。

ただし、大学院生などの研修期間に関しては、週4日以上形成外科の臨床研修に携わったものはフルカウントできる。なお、臨床研修が週3日のものはその年限の3/4を、週2日のものはその年限の1/2を、週1日のものはその年限の1/4をカウントするものとする。研修の実状は当該科の所属長、または施設長が責任をもって認定する。なお、申請内容に疑義が生じた場合、専門委員会にて審議することがある。

2. 研修施設

形成外科研修については、学会が認定した形成外科研修施設、あるいはこれと同等以上と認め

た国外の施設とする。ただし、学会が認めた認定施設で最低2年以上の研修を必要とする。その他の臨床研修については、厚生労働省の定める臨床研修指定病院、またはこれに準ずる病院とする。

第20条（研修記録）

第18条第3項の記録とは研修期間に行った次の項目の記録をいう。

- (1) 申請者の受け持った患者で直接手術に関与した300症例の症例一覧表
 - (2) 申請者の受け持った患者で直接手術に関与した20症例の症例一覧表
 - (3) 申請者が術者として手術を行った10症例についての所定の病歴要約
 - (4) (2)、(3)の症例は、認定施設あるいは教育関連施設で行った症例に限る。
2. 前項(2)、(3)の症例にはそれぞれ以下の11項目中8項目以上を含まねばならない。
- (1) 新鮮熱傷（全身管理を要する非手術例を含む）
 - (2) 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷
 - (3) 唇裂・口蓋裂
 - (4) 手、足の先天異常、外傷
 - (5) その他の先天異常
 - (6) 母斑、血管腫、良性腫瘍
 - (7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建
 - (8) 癍痕、癍痕拘縮、ケロイド
 - (9) 褥瘡、難治性潰瘍
 - (10) 美容外科
 - (11) その他

ただし、同一症例の同一部位は、1項目としてのみ適用される。同一症例の同一部位は一人の研修者の記録としてのみ適用される。同一症例であっても、疾患、部位が異なる場合は、この限りではない。

第21条（提出書類）

審査を受けようとするものは、以下の書類を定められた期日までに専門医認定委員会に提出するものとする。

- (1) 認定申請書ならびに所定の審査料
- (2) 日本国医師免許証の写し
- (3) 履歴書および業績（形成外科に関する論文）
- (4) 研修病院在籍証明書またはこれに代わるもの。認定施設の長が異動あるいは不測の理由で証明できない場合、病院長あるいは後任者が一括して研修期間を認定することができる。
- (5) 第20条に定める症例の記録
- (6) 日本形成外科学会主催の講習会（学術研修会あるいはインストラクショナル・コース）の受講証明書4枚以上

第23条（認定審査）

専門医認定委員会は、以下の各項によって認定審査を行う。

1. 資格審査

専門医認定を申請するものが、第18条に定める資格を充足しかつ十分な研修を受けているか否か提出書類を基に審査する。

2. 試験審査

資格審査合格の者に対し以下の試験審査を行う。

- (1) 形成外科的一般知識に関する筆記試験を行う
- (2) 主に申請者の研修記録について口頭試問を行う

第33条（教育関連施設）ただし書

－前文省略－ ただし、教育関連施設における研修は、2年間のみ第19条にいう形成外科研修期間として認められる。

第34条（教育関連美容外科施設）ただし書

－前文省略－ 申請および条件は第33条にいう教育関連施設と同様であるが、教育関連美容外科施設における研修は1年のみ形成外科研修期間として認められる。

7. 申請書類記入上の注意

基本重要事項（必読）

申請書類ならび審査基準は改良を重ねておりますが、未だに申請者の10~20%に書類不備が認められます。不備の内容は、事務的資料（研修歴・捺印など）と10、20、300症例の臨床能力評価資料（写真、画像、観察期間など）の両者に認められます。専門医には医師のみでなく社会人としての素養が求められ、十分に配慮された資料の作成と提出が必要です。一方、書類不備が多い申請者は、最終試験の結果も不良な傾向があります。これらの現状を踏まえ、改めてこれまで継続してきました書類審査における重要事項を以下に掲載いたします。Q&A及び本「手引き」を熟読し、吟味精察された書類作成、さらには研修施設責任者等の校閲を受けて提出していただけますようお願いいたします。

- 1) 事務的資料、臨床能力評価資料の不備は、過去においても最終審査（筆記・口頭試問）における減点の対象とされてきており、今後もこの方針は継続されます。過去の例から、減点された申請者の合格率は極めて低い傾向があります。
- 2) 事務的資料不備は必要資料不足とみなされ、書類受理自体ができない場合があります。また、締め切り後に郵送された書類は、受理できませんのでご注意ください。
- 3) 臨床能力評価資料不備において、10症例の明確な不備（マイナー症例が2つ以上、症例分類8項目に満たない、指定研修病院以外での症例、提出必要写真・データの不備など）は書類審査で不合格になりますので、吟味して書類をご提出ください。
- 4) 事務的資料、臨床能力評価資料で不備多数の場合には、書類審査で不合格になることがあります。
- 5) 事務的資料不備は再提出を求めることがありますが、臨床能力評価資料の不備は本年度からの電子媒体申請に伴うセキュリティ面も含め再提出は原則求めませんのでご注意ください。
- 6) 個人情報保護法などの倫理面から、10、20、300症例の個人情報の取り扱いは厳重にお願いいたします。なお、本年度からの電子媒体申請に伴い、患者IDや施設名などの取り扱いを変更いたします。

a) 一般的注意

- 1) 申請書類は形成専門医申請のファイルの中のテンプレートに従って入力していただきます。自書・捺印の必要な書類はプリントアウトし、黒インク、黒ボールペンを用いて記名、捺印の上、スキャンし、PDFファイルとして提出してください。
- 2) デジタルデータは、「電子化Tips」に記載された方法で、セキュリティUSBメモリーに保存していただきます。
- 3) 年月日は西暦で統一して下さい。
- 4) 全項目について、記入漏れの無いように慎重に確認して下さい。
- 5) 経歴証明書は、それぞれ連続する1期間につき1枚記入して下さい。
(学会入会年月日をご確認の上、研修証明書を作成願います。)
- 6) 形成外科研修については、研修施設ごとに経歴証明書を記入し、9ケタの施設認定番号を必ず記入して下さい。
- 7) 同一施設内における他科所属の取り扱いにつきましても、形成外科指導医のもとに研修を行っていただければ認められます。詳細はQ&Aをご覧ください。
- 8) 経歴証明者は当該科の所属長、または施設長です。
(認定施設の長が異動、あるいは不測の理由で証明できない場合、病院長あるいは後任者が一括して研修期間を認定することができます。)
- 9) 大学院生などの研修期間に関しては、週4日以上形成外科の臨床研修に携わったものはフルカウントできますが、臨床研修が週3日のものはその年限の3/4を、週2日のものはその年限の1/2を、週1日のものはその年限の1/4をカウントするものとします。研修の実状は当該科の所属長、または施設長が責任をもって認定します。なお、申請内容に疑義が生じた場合、専門医認定委員会で審議、調査することがあります。
- 10) 押印箇所に押印の無い書類は「書類不備」とみなされますので、提出前に押印漏れが無いか、しっかりと確認して下さい。
- 11) 過去に受験経験がある方は、前回の書類様式で申請することはできません。すべて「手引き」に記載された様式で新たに作成し提出して下さい。また、審査基準は年度ごとに改定されるため、前回と全

く同様の内容や症例で提出された場合、不合格になることがよく見られます。「手引き」・Q&Aを熟読後に、再度書類内容を吟味して、新しく作成して提出して下さい。

b) 300 症例

- 1) 10 症例、20 症例と重複して構いません。
- 2) 経歴証明書に記載された施設以外での症例でも可です。
- 3) 執刀者以外、助手であった症例も認めます。平易な手術手技でも可です（ただしレーザーに限っては30 症例までとします）。
- 4) 300 症例の一覧表は形成専門医申請のファイルの中にあります。入力方法は「電子化 Tips」を参照してください。

c) 20 症例

- 1) 資格審査・口頭試問の対象となります。
- 2) 提出される『経歴(在籍)証明書』に記載された施設以外での症例も、20 症例として**提出することは可能**です。出張病院での症例も認められますが、認定施設、教育関連施設、教育関連施設美容外科と承認された施設に限ります。**(新専門医制度の専門研修連携施設の基準とは異なりますので注意して下さい)**
- 3) 提出症例では、症例分類の11 項目中8 項目以上を含む必要があります（専門医制度細則第 20 条）。
- 4) 20 症例の記録は、形成専門医_20 症例ファイルを使用して下さい。入力方法は「電子化 Tips」を参照してください。
- 5) 10 症例と重複しないで下さい。

d) 10 症例

- 1) 資格審査・口頭試問の対象となります。
- 2) 提出される『経歴(在籍)証明書』に記載された施設以外での症例は、10 症例として**提出することは不可**ですので注意して下さい。**出張病院での症例も認められません。**認定施設、教育関連施設、教育関連施設美容外科に承認された施設に限ります。**(新専門医制度の専門研修連携施設の基準とは異なりますので注意して下さい)**
- 3) 基準を満たさない症例が含まれた場合は、原則として不合格となりますので注意して下さい。
- 4) 10 症例の写真の作成・提出に対しては以下の点に留意して下さい。また、**Q&A も必ず熟読**して下さい。
 - a) 10 症例はすべて術後 180 日以上経過した写真を必ず提示して下さい。（形成専門医申請ファイルの中にある10 症例写真チェックシートで確認できます）

術後178 日経過写真の様に、ほぼ180 日経過していたとしても、180 日以上経過とは認められません。また、1 疾患に対し予定手術で2 回、3 回…と複数回手術を行っている場合（エキスパンダー手術、切離・修正を要する皮弁移植手術など）は、最後の手術日から180 日以上経過写真を提出して下さい。Q&A も参照してください。
 - b) すべての症例に術前・術中・術後の写真を提示して下さい。術前とは原則として麻酔導入前とします（挿管後や全身麻酔下の写真は術前写真として認めません）。ただし、他科から依頼された同時再建症例、乳幼児や指示に従えない症例などは、麻酔後の写真でも認めます。術中写真とは、原則として執刀開始から縫合終了前までの手術の途中経過を示す写真を示します。デザインと縫合終了直後は術中に含まれません。
 - c) **写真はカラー写真が望ましく、目的とする部位と変化が分かるもの**に限ります。
 - d) 提示の写真にはいつ時点で撮影したのかが分かる様に、テンプレートに従って「術前(or 術中 or 術後)写真 20××年○月△日撮影」と必ず入力して下さい。入力方法は、「電子化 Tips」で確認して下さい。
 - e) 術前・術中・術後の写真は、全てに付番して、分類して下さい。また、形成専門医申請ファイル内にある10 症例写真チェックシートに入力して下さい。入力方法は「電子化 Tips」で確認して下さい。
 - f) 上顎骨や下顎骨の骨折手術や骨切り術など咬合が関与する手術は、原則として術前、術後の咬合写真が必須です。ただし、術前鎮静下にある例や重症骨折例の術前咬合写真は、全身麻酔下の写真でも可とします。
 - g) 皮膚移植は、採皮部の術後の状態が分かるように**写真(術後180 日以上必須)**を貼り付けて下さい。2010(平成22)年1 月以降の症例に関しては、写真を提示していないと不可とします。それ以前の症例で写真が無い場合、詳細な説明を入れてください。

- また、その他の組織採取部(皮弁、骨、軟骨、脂肪、筋肉、筋膜など)も同様の扱いと致します。
- h) 眼瞼の症例は、開瞼、閉瞼の両方の写真を提示して下さい。
 - i) 原則として写真の差し替え・再提出・追加、術後日数の修正は認めません。
 - j) 形成専門医申請ファイル内にある10症例写真チェックシートの記入は必須です。全ての項目を記入して問題が無いか確認して下さい。記入方法は、「電子化Tips」を参照して下さい。
- 5) 申請者が執刀した形成外科における優れた技能を示す代表的な症例を提示して下さい。
(平易な手技による手術症例は避けて下さい。)
- 6) 主たる手術手技が、単一手術手技になり過ぎないように、同一部位の手術に偏らないように注意して下さい。
同一部位かつ同一手技の症例は1例に限ります。
- 7) 20 症例と重複しないで下さい。
 - 8) 診断名は、病理組織診断名を含めて詳細に記入して下さい。
 - 9) 手術記録は、写真とシェーマで明確に詳しく記入して下さい。
(術中写真のみで示せていないことについては手術の計画が分かるように随時必ずシェーマをつける必要があります)
 - 10) 熱傷では、熱傷面積(%)を付記して下さい。全身熱傷の非手術例では、熱傷面積、深度のほか全身管理を行ったことを示す補液量、投薬、尿量、体温変化、血液データなどがわかる温度板などを必ず添付して下さい。
 - 11) 皮膚移植(分層)に対しては、移植した皮膚の厚さを明記して下さい。
 - 12) 術前術後の放射線画像は原則同じ方法で撮影されたものを提示して下さい。
 - 13) 骨に関する症例は、術前、術後のX線写真(術後90日以上)を貼り付けて下さい。
(フィルムは不可となります)2016(平成28)年8月以前の症例に関しては、90日以内のX線写真でも術後の治癒状態が分かるものであれば可とします。
 - 14) 唇裂では、初回手術、2次手術を問いません。
 - 15) 口蓋裂では、術後の言語評価もしくは術後写真が必要です。
 - 16) 11項目分類の項目5(腫瘍・母斑・血管腫)として提出症例では、病理診断名と病理所見を記入し、組織写真を提示して下さい。
 - 17) 手術術式は、正確に記入して下さい。
例えば、〇〇形成術などの曖昧な表現は避け、適切な手術内容を示す手術手技名を用いて下さい。
 - 18) 平易な手技の症例はマイナー症例とみなします。
10症例中、2症例以上にマイナー症例がある場合には、原則として不合格とします。
 - a) レーザー症例はマイナー症例とみなします。
 - b) 糖尿病や末梢血管障害などを伴わず、切断レベルに関する詳細な検討を要さないような単なる四肢切断術は、マイナー症例とされる場合があります。
 - c) マイナー症例を生じその分野で代表的執刀例がなくなったことで8項目を満たせなくなれば書類が条件を満たさないと判断します。(マイナー症例が1症例の場合、残り9症例で8項目を満たさなければ不合格となります)
 - 19) 写真、X線などの必要条件は、施設個別の事情を斟酌しません。必ず提出して下さい。
 - 20) 10症例ファイルは多くの写真を貼り付けるのでファイルの容量が大きくなります。そのまま提出せず、審査用ファイルの画面表示に適切な品質(解像度150ppi程度)になるようにPowerPointファイルのサイズを圧縮して提出してください。
 - 21) 書類審査過程で提出資料に疑義が発生した場合には、記載事項確認のためにカルテの写し、日付が確認できるX線、CT写真のコピーなどの提出を要求することがあります。
 - 22) 専門医認定審査に関連する新しい情報が発生した際、日本形成外科学会ホームページにて、随時掲載を予定しておりますので、以下 URL 先の「TOPICS」を頻繁にチェックされる事を推奨いたします。

日本形成外科学会ホームページ(<http://www.jsprs.or.jp/>)

8. 個人情報の取り扱いについて

- 1) 申請書類は3年間事務局にて保管した後、破棄(溶解処理)いたします。保管・廃棄に当たっては個人情報保

護法を遵守します。

- 2) 一般社団法人日本形成外科学会個人情報保護方針に基づき、収集した個人情報は専門医認定審査の目的に利用し、他の目的には利用いたしません。
 - 3) 申請書類作成に際しては、電子媒体を利用したり、施設外へ情報を持ち出したりすることにより盗難や紛失等の機会も増えます。申請者は、特に10症例には要配慮個人情報（機微情報）に当たる可能性のある情報が存在するので、データを暗号化するなどして厳重に取り扱うようお願いいたします。
 - 4) 個人が特定される可能性のある症例については、患者への十分な説明のもとに承諾をお取り下さい
9. 問い合わせ（症例内容などの学術的質問に関しては、**お近くの認定委員にお尋ね下さい**。また、申請ファイル（Powerpoint, Excel, PDF）や書類の記入方法や申請方法など事務的質問については日本形成外科学会事務局にお問い合わせください。）

専門医認定委員名と E-mail ◎印は委員長

赤松 正（東海大学）

akamatu@is.icc.u-tokai.ac.jp

今井 啓介（大阪市立総合医療センター）

imai-k@abox3.so-net.ne.jp

垣淵 正男（兵庫医科大学）

mkaki@hyo-med.ac.jp

清澤 智晴（防衛医科大学校）

xoo@ndmc.ac.jp

島田 賢一（金沢医科大学）

shimaken@kanazawa-med.ac.jp

多久嶋 亮彦（杏林大学）

takushima-pla@umin.ac.jp

田中 克己（長崎大学医学部）

katsumit@nagasaki-u.ac.jp

宮脇 剛司（東京慈恵会医科大学）

caritakm@jikei.ac.jp

安田 浩（産業医科大学）

h-yasu@med.uoeh-u.ac.jp

秋元 正宇（日本医科大学千葉北総病院）

akimoto@nms.ac.jp

大久保 文雄（昭和大学医学部）

fohkubo@med.showa-u.ac.jp

◎木股 敬裕（岡山大学大学院医歯学総合研究科）

ykimata@cc.okayama-u.ac.jp

小室 裕造（帝京大学医学部附属病院）

ykomuro@med.teikyo-u.ac.jp

関堂 充（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

msekido@md.tsukuba.ac.jp

武田 啓（北里大学医学部）

takeda@kitasato-u.ac.jp

三川 信之（千葉大学医学部）

nmitsu@air.linkclub.or.jp

森本 尚樹（関西医科大学）

morimotn@hirakata.kmu.ac.jp

四ツ柳 高敏（札幌医科大学）

yotsuyanagi@sapmed.ac.jp

日本形成外科学会事務局

TEL : 03-5287-6773 （受付可能時間 9 : 00～18 : 00）

E-MAIL jsprs-office01@shunkosha.com